

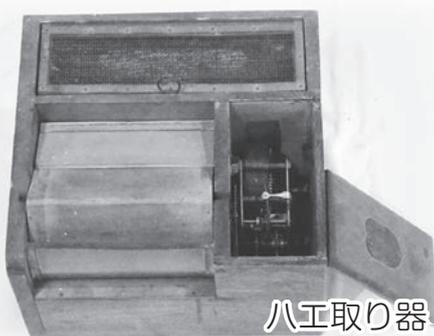


# ろくべん館だより

こんにちは。ろくべん館の管理人の森上です。今年は異常気象で集中豪雨が何度も日本を襲い多くの犠牲者が出ました。新型コロナも蔓延が収まらず大変な状況となっておりますが、一日も早く穏やかな日々が訪れることを願っています。

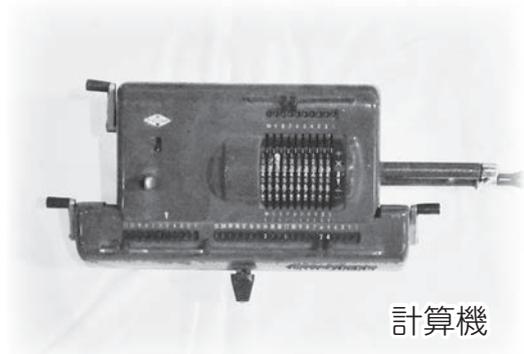
さて、今回はろくべん館の変わった展示物についてお話ししたいと思います。現在のろくべん館にはさまざまな品物が集まり保存されています。多くは村民の皆さんから寄贈された農林具、日用品、工具、工芸品などとなります。私が展示物を眺めて変わったもの、面白く感じた物をいくつか拾いだしてお話します。

一つ目は、ぜんまい式ハ工取り器です。これは、木製の箱型のもので、ぜんまいが動いて部品が回転しながらハ工をとっていくものでとてもしゃれた道具となっています。実際にどのようにとれるかは試すことはできませんが見た目からも面白い道具の一つと言えるでしょう。



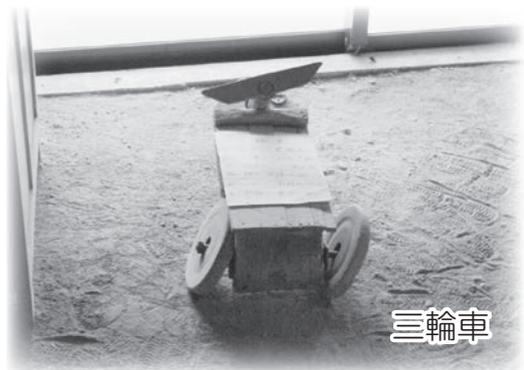
ハ工取り器

二つ目は、計算機です。重たい金属製（鋼鉄製か？）でダイヤル状の数字を選んで計算をしたようです。現在から考えるとかなり操作が面倒な機械と思われるのですが、特に官公庁で使用されたと説明書きに記載されています。小型の電池式計算機ができ普及したことで徐々に消えていった道具といえます。



計算機

三つめは、三輪車です。木製の手作りのような三輪車ですが、車輪の軸が歪んでいて、見るからにまともに動くかもわからないような状態です。現在のような優れたおもちゃのない時代のもので、金属製の三輪車ができるまでのものだったのででしょうか。



三輪車

このように、ろくべん館には本当に様々な品物があり、展示されています。

また、収集されているものの中でも変わった面白いものが数多くあります。これから、ろくべん館は大改修が始まり、今までの展示内容とは大きく変わり、今までになかった分野・種類の展示も増えます。写真、切り絵、パネルなど幅広い内容の展示となっていきます。詳しくは、先月の全戸配布でお配りした資料を参考にしてください。ぜひ、改装後のろくべん館を楽しみにお待ちしております。よろしくお願いいたします。